

公益財団法人痛風・尿酸財団

2025年度事業報告書

I. 概況

痛風・尿酸分野に於ける我が国の研究は、慢性腎臓病や心血管障害やその他疾患への影響も明らかになるなど今や世界に冠たる水準にあるが、痛風の通院患者数は増え続けて、現在約130万人、高尿酸血症患者は約1,000万人と推定され生活環境の変化等も加わり更に増加し続けていると言われ、研究の更なる深化が求められている。

当財団は、研究者への研究助成事業や医師・医療関係者等を対象とした最新情報に関する研修会の実施を通じて、痛風や尿酸に関連する疾患の医療の質の向上と発展を目指し、また一般の方々や患者への啓発活動と国民保健の向上へ寄与することを基本理念としている。

一方、事業を支える財政面では、各方面からの寄付や賛助会費の減少、資産運用の効率化が途上であること、あわせて物価上昇などの影響もあり、引き続き厳しい運営を求められている。

II. 事業の概要

1. 研究助成事業

痛風・尿酸・核酸代謝に関する臨床的あるいは基礎的研究を対象として、研究成果が疾患および病態の成因と治療や予防に有用な影響を与えるものと期待される研究を対象に助成を行った。

募集は、財団ホームページや医学関係の雑誌等へ掲載し、9月1日から10月31日に応募を受け付け、応募総数は43件であった。

選考は、理事会で選任された各専門分野の選考委員4名と財団理事3名の計7名で、応募書類を事前に審査し、その結果をもとに12月12日開催の選考委員会で審議を行い、研究助成対象者18名に総額510万円の助成を実施した。

[選考委員]

山中 寿 公益財団法人痛風・尿酸財団 理事長

鎌谷 直之 スタージェン医療人工知能研究所 所長、財団理事

細谷 龍男 東京慈恵会医科大学 名誉教授、財団理事

今田 恒夫 山形大学Well-Being研究所教授

山形大学大学院医学系研究所 公衆衛生学・衛生学講座/腎臓膠原病内科

中山 昌明 聖路加国際大学 産官学連携室室長

貫和 敏博 東北大学名誉教授

平田 信太郎 広島大学リウマチ・膠原病科教授

[研究助成対象者]

高田 龍平 東京大学医学部附属病院 教授/薬剤部長

「URAT1の生理的基質であるニコチン酸が腎機能に与える影響」

片岡 浩史 東京女子医科大学 腎臓内科 講師

「「やせ型」高尿酸血症と「肥満型」高尿酸血症の病態解明

～「糸球体虚脱」と「糸球体肥大」から考える個別化医療・属性医療(ABM)」

森戸 直記 筑波大学医学医療系 准教授

「MAFBがMSU結晶誘発炎症およびNLRP3インフラマソーム活性化に関する可能性
の検証:RXR/LXR軸による転写制御に着目して」

藏城 雅文 大阪公立大学大学院医学研究科代謝内分泌病態内科学 講師

「尿酸降下薬の処方実態と血清尿酸値管理状況に関する実態調査」

鶴田 文憲 筑波大学 生命環境系 助教

「プリン代謝によるミクログリア変容と脳血管形成の連関」

山崎 正夫 宮崎大学農学部農学科 応用生命化学領域 教授

「腸内代謝物による尿酸排泄促進メカニズムの解明

～小腸 ABCG2 を標的とした新しい食事性尿酸制御戦略～」

安西 尚彦 千葉大学大学院医学研究院 教授

「腎有機酸・尿酸トランスポーターOAT4(*SLC22A11*)における尿酸およびクエン酸輸送の
クロストーク解明」

井上 裕介 群馬大学大学院理工学府 教授

「核内受容体 HNF4 α による尿酸排泄・再吸収機構の解明」

山内 隆好 旭川医科大学医学部 助教

「尿酸・核酸代謝異常による免疫監視機構の破綻と疾患発症の分子基盤」

木村 航 国立研究開発法人理化学研究所生命機能科学研究センター チームディレクター

「核酸代謝制御による心筋再生」

北見 俊守 国立研究開発法人理化学研究所 生命医科学研究センター代謝ネットワーク研究

チーム チームディレクター

「痛風モデルマウスを用いた NLRP3 インフラマソーム活性化剤と阻害剤の作用機序解析」

山本 毅士 大阪大学大学院医学系研究科腎臓内科学 特任助教(常勤)

「近位尿細管の尿酸再吸収亢進に着目した腎臓病進展の病態解明と治療(継続)」

高田 知朗 鳥取大学医学部附属病院 腎センター 副センター長

「ヒト腎組織における尿酸輸送体発現と尿細管上皮細胞障害の分子病理学的関連解析」

後藤 孔郎 大分大学 グローカル感染症研究センター 教授

「認知症発症リスクの軽減に対する抗酸化物質としての尿酸の役割」

篠原 啓介 九州大学病院循環器内科 助教

「尿酸の中樞性作用による神経性心腎連関の新規病態機序の探索」

藤田 義人 京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学 講師

「キサンチンオキシドレダクターゼによる ROS-炎症シグナル制御を介した褐色脂肪機能調節機構の解明」

佐藤 奈々 東京大学大学院農学生命科学研究科 応用生命化学専攻 食品生物構造学研究室 特任研究員

「ヌクレオシドとポリメトキシフラボノイドを組み合わせた強力な SIRT1 活性化方法の確立」

廣野 守俊 和歌山県立医科大学 医学部 生理学第二講座 准教授

「尿酸の神経細胞興奮と運動失調への関与」

2. 研修事業

◦ 痛風・尿酸研修会

全国の医師・薬剤師・栄養士など医療関係者を対象として、9月7日(日)に東京・神田神保町の日本教育会館にて開催し、62名の参加があった。

また、研修会の講義内容を録画しオンデマンドビデオ形式での配信を行い、36名の参加があった。

研修会のプログラムと講師は以下の通り

第1部: 高尿酸血症・痛風診療の基本

座長 大山博司先生 (両国東口クリニック)

1. 関節超音波による痛風関節炎の理解と日常診療への応用

講師 瀬戸洋平先生 (日本リウマチ学会専門医・指導医)

2. 高血圧および関連疾患における尿酸管理

講師 土橋卓也先生 (社会医療法人製鉄記念八幡病院 顧問)

ランチョンセミナー

座長; 山中寿先生 (公益財団法人痛風・尿酸財団)

1. 日本人DB研究から見えた腎臓リスクのための尿酸管理と薬剤介入

佐藤倫広先生 (東北医科薬科大学 医学部衛生学・公衆衛生学教室 講師)

2. 尿酸塩結晶沈着と痛風、CVD残余リスク

益田郁子先生 (十条武田リハビリテーション病院 リウマチ科 部長)

第2部: 痛風・尿酸核酸領域のアップデート

座長 大野岩男先生 (東京慈恵会医科大学 客員教授)

1. 尿酸に関する疫学研究のアップデート

今田恒夫先生 (山形大学大学院医学系研究科公衆衛生学・衛生学講座 / 腎臓膠原病内科 教授)

2. 痛風・高尿酸血症とABCG2遺伝子

松尾洋孝先生 (防衛医科大学校 分子生体制御学講座・バイオ情報管理室 教授)

第3部 Q&A 各講師 及び 座長

- 痛風協力医療機関の拡充

患者や一般の方からの問い合わせは医療機関の紹介依頼が多く、全国の106カ所の痛風協力医療機関を推薦している。しかし、協力医療機関は東京や大阪などに集中しており、地域によっては要望に応えるには十分とはいえず、研修会参加医師への呼びかけや関係者の推薦により協力医療機関を増やすよう努めている。また痛風協力医療機関の診療ガイドラインに沿った治療や研修会参加の促進など、活動の拡充を図っている。

3. 啓発事業

- インターネットによる啓発

財団ホームページへの年間アクセス件数は約60万件であり、例えば「痛風・尿酸ニュース」の欄では痛風や尿酸についての情報などを掲載している。今後も、痛風や高尿酸血症などについての最新記事や医療機関の情報を提供していく所存である。

- 一般患者からの問い合わせへの対応(診療医療機関の紹介など)

居住地域を考慮して痛風協力医療機関を紹介し、発作時の対処方法や食事などについては専門医師に問い合わせの上でその内容を伝えている。

- 小冊子及び会報による啓発

「尿酸値をコントロールする」などの小冊子は協力医療機関を通じ配布を行っている。

会報は、財団理事・評議員や関係者などからの寄稿文や最新情報を掲載し年初に賛助会員や協力医療機関などに配布を行っている。

- 啓発事業の質を改善するための取組

啓発事業の質を高めるため、財団ホームページの刷新に着手した。見やすいデザインへの変更、また他組織の有する痛風・尿酸関連記事へのリンク検討、他組織との連携による動画配信活動の検討も実施した。

4. その他

- 港区の公益財団を支援する「港区版ふるさと納税制度(団体応援寄付金)」を活用した支援を依頼しており、2025年は11名(79万円)の申込があった。

- 昨年8月よりYahoo!ネット募金サイトが開設され、クレジットカード・Vポイント・PayPayなどを利用した寄付が可能となった。3月末現在で寄付金総額は約14万円ではあるが、寄付者数は400名を超え、同サイトの閲覧者数を考慮すると財団の啓発活動に大きく貢献していると考えられる。

- 「運営体制の充実を図るための取組」として、法務や会計、経理的基礎を補強するために公益法人に関する専門的知識や経験が豊富な外部組織と契約を締結し公益財団法人としての基盤の確立を図った。

Ⅲ. 会員の現況（2026年3月31日現在）

個人賛助会員：87人

団体賛助会員：11団体

特別賛助会員：7団体

以 上